

## 第 85 回歴史探訪の会 岸和田市を巡り新年懇親会を楽しむ

実施日：令和 5 年 1 月 17 日

場 所：大阪府・岸和田市

案 内：内海春樹(2579)

令和 5 年最初の例会は、21 名の参加で岸和田市「蛸地蔵駅」からスタートしました。

コース：南海電車・蛸地蔵駅 ～ 蛸地蔵天性寺 ～ だんじり会館 ～ 五風荘(新年会) ～  
岸和田城 八陣の庭 ～ 岸和田駅(解散)

「蛸地蔵駅」は大正 14 年に南海電車の駅として開設されました。南欧風の珍しい駅舎で「蛸地蔵」のステンドグラスがはめられています。



蛸地蔵駅 駅舎とステンドグラス

蛸地蔵駅から少し歩いて「蛸地蔵」という変わった名称の由来が分かるというお寺を訪ねました。

### 1. 蛸地蔵天性寺

天性寺は岸和田城の城下町を敵から守る手だてとして 400 年前に建立されました。そこには「蛸地蔵菩薩」とその由来を描いた絵巻物が大切に保存されています。今回は住職さんのご好意でその絵巻物を直接見せて頂くとともに解説もして頂きました。ユーモアたっぷり、とても分かりやすく説明され、会員は和やかな雰囲気の中で理解する事が出来ました。

(由来)

岸和田は古来高潮や戦に巻き込まれ何度も壊滅寸前になりましたが、その都度大蛸に乗った一人の法師と数千の蛸がどこからともなく現われ高潮や、敵兵から城と町の危機を救いました。後に城の堀から矢傷・玉傷を無数に負った地蔵が発見され、城主を始め町の人々が大切にあげ、後に天性寺の地蔵堂に収められました。





天性寺のご住職より絵巻物の解説をしていただきました

## 2. だんじり会館

約 300 年の歴史と伝統を誇る「岸和田だんじり祭」は、元禄 16 年(1703 年)、時の岸和田藩主岡部長泰(おかべながやす)公が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの 5 つの穀物がたくさん取れるように(五穀豊穡)祈願し、おこなった稲荷祭がその始まりと伝えられています。

だんじり会館に入るとすぐに巨大なマルチビジョンによる映像で「だんじり祭り」の迫力が伝わってきました。実物のだんじりや各町内のミニだんじり、はっぴなどが展示され、体験コーナーでは、だんじりの大屋根が置かれ、会員もその上に乗って踊る体験をしました。

岸和田のだんじりは有名ですが実際に見た人は少なく、その勇壮な祭りの一端を感じる事ができました。





だんじり会館を後にして少し歩くとみんな楽しみにしていた新年会の会場「五風荘」の立派な門が見えてくる。

### 3. 五風荘(ごふうそう) 新年懇親会

岸和田市にある近代和風建築と回遊式日本庭園。岸和田城二の曲輪の「茶屋」の跡地に旧寺田財閥寺田家の別邸として建設された。正門は奈良東大寺塔頭中性院表門を移築したもの。面積は約 8000 平方メートルで、回遊式庭園内に 3 つの茶室が設けられている。

新年懇親会は日本庭園が望める広間だが、椅子・テーブル席で助かる。森さんの乾杯音頭で懇親会が始まりましたが、久しぶりのアルコール付きで、出された“釜めし”も大変美味しくお互いの近況話なども大いにはずみました。最後に“ビンゴゲーム”でも大いに盛り上がりました。



#### 4. 岸和田城

建武新政期に楠木正成の一族、和田高家が築いたといわれています。天正13(1585年)羽柴秀吉は紀州根来寺を討滅後、叔父小出秀政を城主とし城郭整備され、天守閣もこの時に築られました。豊臣滅亡後寛永17(1640)年、岡部宣勝が入城(6万石)以後、明治維新まで岡部氏13代が岸和田藩を統治しました。天守閣は文政10(1827)年に落雷で焼失、近世以前の構造物は堀と石垣以外には残存していません。現天守閣は、昭和29年に建造された3層3階の天守です。本来は5層天守であったことが絵図などで確認されています。



#### 国指定名勝 岸和田城の庭園(八陣の庭)

昭和28(1953)年に重森三玲が設計・作庭を行った回遊式枯山水庭園です。伝統的な日本庭園にはなかった独創的なデザインで、現代庭園の画期となった作品と評価されています。庭園の平面は、中世城郭の縄張図を参照しつつ現代風にアレンジされ、三重の屈曲線で仕切られた上・中・下三段で構成されています。上段中央に「大将」を表す石組を配置し、中・下段には大将を守るように8組の石組が配置されています。これらの石組みは、360度どの方向からも観賞できるように設計されています。重森三玲は八陣法が本来敵を攻める陣形ではなく、平和確立のために外敵から守る陣形であるとして、平和への願いをこの庭に込めたと自ら記しています。なお、石材は沖ノ島(和歌山県)産の結晶片岩が使用されています。



八陣の庭 設計図



五風荘にて



岸和田城を背景にして